



パウロン選手・村田透馬選手・町田ブライト選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
5 パウロン選手
DF 31歳

ブラジルの最南端、夏は長く冬が短いリオ・グランデ・ド・スル州出身で、ブラジルのプロサッカーチームを経て2013年来日。札幌、福島、水戸、栃木、新潟の各チームを経て昨年秋にFC岐阜へ加入した。昨シーズンの最終戦に出場したが、今シーズンはケガ等もあり、なかなか出場機会に恵まれていないが、いつでも出られるように最高の準備をしてスタンバイしている状況である。

パウロン選手と一緒に来日した奥さんと、日本で生まれた5歳の長男とで、岐阜での生活にも馴染んでいる。息子が好きなブラジルのソウルフード、豆料理の「フェイジョン」の食材もブラジル食材スーパー3店舗で手に入れることができるので快適に過ごせている。

日本の食べ物は何でも好きで、匂いが嫌いだった納豆も体に良いと聞いてから食べるようになり、今では大好きになった。

FC岐阜の選手は若手もベテランも素晴らしい選手揃いで、今年は必ずJ2に昇格できると確信しているので、最後に皆さんと一緒に喜び合えるように頑張りますと意気込みを語ってくれた。

静かにしていると192センチの長身から見下ろす鋭い眼光で、怖いような風貌であるが、何事にもあきらめない集中力のある性格で、笑顔が光る期待のブラジリアンである。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
7 村田透馬選手
FW 21歳

2018年興國高校3年の時に大阪の1部リーグで優勝、プリンスリーグ関西参入戦でも勝利し、上位リーグへ昇格を果たせたことは、今まで一番思い出に残っている。興國高校の監督からはスコットランド、セルティックFCに移籍した6学年上の古橋選手を上回る逸材とのお墨付きで、同年FC岐阜の特別指定選手に認定され、2試合に出場を果たした。2019年に正式加入したが、筋肉系のトラブルや怪我に悩まされて8試合の出場、2020年も8試合の出場に留まった。

今シーズンは万全の体調で既に前半戦14試合中12試合に出場し2得点を上げて、後半戦への期待も大きい選手である。今の課題は体幹を強くすることで1日4食を続けている。川西選手、本田選手、柏木選手などから様々なアドバイスももらってケガをしないようにハードトレーニングを楽しみながら、頭脳を鍛えるため携帯アプリを使った「脳トレ」への挑戦も続けている。

大阪府堺市出身で両親と姉の4人家族で育ち、中学2年生まで習ったピアノで「トルコ行進曲」などの曲を弾けたようだが、気分転換に折角の素養を忘れない程度に楽しめるといいねと推薦した。

好きな言葉は「自信は準備から来るもの」、「大事なものは成功のために努力し続けること」と今の彼に必要なことをしっかり自覚しており、頼もしい限りである。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
15 町田ブライト選手
FW 24歳

6歳でサッカーを始め、東京赤羽の成立学園高校の時にインターハイに2回出場し、東京国際大学3年の時にインカレで3位、その後JAPANサッカーカレッジで講師兼選手を経て2020年FC岐阜へ加入した。プロ初年度の昨シーズンは19試合に出場し3得点を上げ、屈強な体でフィジカルは強く足も速い、愛称は「ブラ」。今シーズン前半戦は2試合の出場で、後半戦の活躍が期待される選手である。

性格は控え目だが負けず嫌い。プロとしてFC岐阜に入ってみて、皆モチベーションが高く、上には上がいると感じ、勉強の日々を過ごしている。特に36歳の本田選手の鉄人のような走り込みによるコンディショニング作りや、川西選手や柏木選手が熱心に練習する姿からは学ぶことばかりだ。身体を絞った方が良いとのアドバイスも貰い、自分自身ではなかなか気づけないので、本当に有難い言葉だと思っている。

オフは、関市にある「モネの池」や板取川などの美しい景色を楽しんだり、寺社仏閣やお城にも訪れている。特に金華山を登った先にある岐阜城には良く訪れており、走れば20分で到達できる。食べ物は肉より魚が好きで、鮎も好物。果物も大好きで岐阜のドウ、柿は特に美味しい。岐阜の定食屋さんには好きなメニューがたくさんあるなど、岐阜での生活に満足している。

好きな言葉は「段取り八分」で、今後の引き締まった「ブラ」の活躍に期待している。